

令和3年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る中間評価結果

領域番号	8105	領域略称名	対話知能学
研究領域名	人間機械共生社会を目指した対話知能システム学		
領域代表者名 (所属等)	石黒 浩 大阪大学・基礎工学研究科・教授		

(評価結果)

A－（研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる）

(評価結果の所見)

本研究領域は、対話型ロボットを開発し、人間と機械（ロボット）が言語を用いながら互いの意図や欲求を理解し合い、共生できる社会の実現を目指す研究である。新型コロナの影響で一部の対面実験が遠隔実験になっているが、仮想空間技術を用いた研究環境を構築して対応している。各計画研究は、概ね順調に進んでおり、社会実装の面で産業界や自治体とも連携した検証も始めている点は評価できる。また、人と機械の双方向の意図伝達に向けて、機械の自律性や知能の実現までも含めた検討にも着手されている。

一方、「意図や欲求を理解・推定し、深い対話を実現する」上での本質が何なのかはやや曖昧である。また、一部の対面実験が遠隔実験に変更されたため、対面実験と遠隔実験の位置付けの整理も必要である。実証実験等においても、研究領域内の有機的な連携を一層促進するための工夫や、計画研究組織間の連携による具体的効果を示すことも望まれる。世界的に関連研究の進展が目覚ましい分野でもあるので、本研究領域の特徴を明らかにして、目標達成のために戦略的に研究を進めることが望まれる。